

教科(科目)	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	教育出版『音楽Ⅰ Tutti+』				
副教材等	啓隆社『Music Note』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>①基礎学力の定着と向上により、学ぶ意義を意識して学習する力を育成します。</p> <p>②規律ある学校生活を送る中で、責任ある行動をとる姿勢を育成します。</p> <p>③自己有用感を高めて、主体的に進路選択をする姿勢を育成します。</p> <p>④仲間と協力しながら、積極的に問題を解決する姿勢を育成します。</p> <p>⑤地域の特色やその魅力を理解し、地域の発展に貢献する心を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>①少人数授業での協働的な学びやICTの活用により、個を伸ばす授業を展開します。</p> <p>②生徒との対話を重視し、保護者・外部機関等と協力しながら生徒を支援します。</p> <p>③世との主体的な進路選択につながる体験を取り入れた学習を行います。</p> <p>④生徒一人ひとりが自己の役割を自覚し、自己に対する肯定的な評価に気付くことができる行事運営を行います。</p> <p>⑤地域の人的・物的資源を取り入れ、地域と連携したキャリア教育を実施します。</p>

2 学習目標

<p>音や音楽が醸し出す良さや美しさを感じ取り、幅広い活動を通して個性を生かしながら表現したり鑑賞したりする力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 思いや意図を持って、表現活動・鑑賞活動をさせるようにする。</p> <p>(2) 音や音楽を知覚・感受して、思考や判断し表現する活動を通し、創造的な力を育む。</p> <p>(3) 生活や社会とのかかわりを考え、音環境への関心を高めるとともに、音楽の知的財産権を尊重するようにする。</p> <p>(4) 文化的・歴史的背景など広い視野で音楽を捉え、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。</p>
--

3 指導の重点

<p>生涯にわたって主体的に音楽を愛好していこうとする心情の育成に努めるために、</p> <p>① 日ごろ親しんでいる音楽だけでなく、日本や世界の様々な音楽を幅広く体験させる。</p> <p>② 発声法を学ぶとともに、歌詞の内容や背景と関わらせた曲想をイメージした歌唱表現を目指す。</p> <p>③ さまざまな楽器に親しみ、その基礎的な奏法を身に付け器楽演奏をする。</p> <p>④ 音楽を形作っている諸要素や歴史的背景を学び、それらが楽曲をどのように特徴付けているかに気づき、創造的な表現や鑑賞活動に繋げる。</p> <p>⑤ 自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考えさせる。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・歌唱に必要な体の使い方や発声方法を身につけようとしている。</p> <p>・器楽演奏に必要な奏法を身につけようとしている。</p> <p>・音楽を形作っている諸要素や歴史的背景を学び、理解しようとしている。</p>	<p>・音楽を形作る諸要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、身につけた演奏技術を用いて、表現意図を持ち演奏しようとしている。</p>	<p>・どのような楽曲やどのような課題に対しても、広い視野を持ち、主体的・協働的に音楽活動に取り組もうとしている。</p>

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	① 歌唱実技テスト ② 楽器演奏実技テスト ③ ペーパーテスト ④ レポートなど提出物などから、評価します。	① 授業中の取り組みの観察と実技テスト ② ペーパーテスト ③ レポートなど提出物などから、評価します。	① 授業中の取り組みの観察と実技テスト ② ペーパーテスト ③ レポートなど提出物などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数	教材	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4 ～ 5	芸術音楽で学習すること	1		・中学校までの音楽の授業内容を確認し、これから1年間で取り組む内容を理解する。		
	体の使い方と発声法	4	・校歌 ・J-pop	・基礎発声練習や親しみやすいJ-popを用いて体の使い方を考える。	a, b, c	①, ②, ③ 実技テスト
	楽譜を読む①	3	・副教材	・楽譜に関する知識を養う。 ・編曲をして創作する。	a, b, c	①, ②, ③ ペーパーテスト
	リコーダーに親しむ	4	・ペツォールトのメヌエット	・今まで慣れ親しんできた学期で協働的に音楽に親しむ。	a, b, c	①, ②, ③ グループ発表
6 ～ 7	日本歌曲 ～日本語の美しさを感じ取る～	4	・浜辺の歌	・歌詞の内容、曲想に合わせた発声などを考える。 ・旋律、速度、強弱を知覚し、自ら味わい表現を考える。	a, b, c	①, ②, ③ 実技テスト
	ハーモニーを奏でる	4	・バッハレベルのカノン	・カノンという形式の特性を生かした演奏をする。	a, b, c	①, ②, ③ グループ発表
	ミュージカルの鑑賞	2	・ミュージカル作品	・協働的に音楽活動に取り組む。 ・鑑賞とおし、歌唱とは、表現とはどのようなものか考え、作品を味わう。	a, b, c	①, ②, ③ レポート提出
	楽譜を読む②	2	・副教材	・楽譜に関する知識を養う。	a, b, c	①, ②, ③ ペーパーテスト
9 ～ 10	ミュージックベルに親しむ	14	・Jupiter	・協働的に音楽活動に取り組む。 ・学期の特色に理解した演奏を目指す。 ・楽興行事でもあるフェスティバルに参加することで、達成感や人前で演奏する喜びを味わう。 ・練習創作をすることで仲間との連帯感や責任感を養う。	a, b, c	①, ②, ③, ④ レポート提出 グループ発表

11 ～ 12	イタリア歌曲に触れる	5	・Santa Lucia	・曲想と音楽の構造や、歌詞とのかかわり、言葉の特性を理解する。	a, b, c	①, ②, ③ 実技テスト
	クラシックギターを弾こう	8	・練習曲教材	・曲にふさわしい体の使い方や発声法、言葉の発音などの技能を身に付ける。	a, b, c	①, ②, ③ 演奏発表
	楽譜を読む③	3	・副教材	・楽譜に関する知識を養う。	a, b, c	①, ②, ③ ペーパーテスト
	オペラ鑑賞	2	・魔笛	・鑑賞を通し、歌唱や表現とはどのようなものか考え、作品を味わう。	a, b, c	①, ②, ③ レポート提出
1 ～ 3	篠笛をふこう	8	・篠笛の本	・和の心を感じ、西洋音楽と響きの違いを養う。	a, b, c	①, ②, ③ 実技テスト
	ブレゼン形式での発表	6	・インターネット等	・自分の好きな音楽のジャンルを深掘りすること、メディアリテラシーや人前で発表することで、今後の社会生活を考える。	a, b, c	①, ②, ③ ペーパーテスト 個人発表

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・実技系の单元ごとに、実技テストや発表を行う。
- ・学期ごとにそれまでの学習内容に関するペーパーテストを行う。
- ・レポートや作品を課した单元は、それを提出する。

8 担当者からの一言

高校では、教科名「芸術」科目名「音楽」となります。
中学校までの音楽で学んだことを生かしながら前向きに、そして楽しみながらレベルアップを目指して一緒に取り組んでいきましょう。
(担当：小黒 朝子)

教科(科目)	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	日本文教出版『高校生の美術1』				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>①基礎学力の定着と向上により、学ぶ意義を意識して学習する力を育成します。</p> <p>②規律ある学校生活を送る中で、責任ある行動をとる姿勢を育成します。</p> <p>③自己有用感を高めて、主体的に進路選択をする姿勢を育成します。</p> <p>④仲間と協力しながら、積極的に問題を解決する姿勢を育成します。</p> <p>⑤地域の特色やその魅力を理解し、地域の発展に貢献する心を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>①少人数授業での協働的な学びやICTの活用により、個を伸ばす授業を展開します。</p> <p>②生徒との対話を重視し、保護者・外部機関等と協力しながら生徒を支援します。</p> <p>③世との主体的な進路選択につながる体験を取り入れた学習を行います。</p> <p>④生徒一人ひとりが自己の役割を自覚し、自己に対する肯定的な評価に気付くことができる行事運営を行います。</p> <p>⑤地域の人的・物的資源を取り入れ、地域と連携したキャリア教育を実施します。</p>

2 学習目標

<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>①美術表現技法の基礎知識に関する学習、および課題制作によって、美術表現の知識と技術を育成します。</p> <p>②教材による美術鑑賞によって、美術の歴史や文化に関する知識を深めることを目指します。</p> <p>③机間巡視を行い、各々の作業進捗に合わせた指導をすることで、課題に取り組みやすくすることを目指します。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</p> <p>・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。</p>	<p>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p>	<p>美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技課題 ・提出物の内容の確認などから評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の取り組みの観察 ・実技課題 ・提出物などから評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の取り組みの観察 ・実技課題 ・提出物などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	オリエンテーション	2	教科書、鉛筆	授業での注意事項、道具の扱い等の説明。	c	授業の取組
	デッサン	6	絵画・彫刻 教科書、画用紙、鉛筆	モチーフを鉛筆で描写する。	a, b, c	課題提出、授業の取組
5	色彩の基礎	2	絵画・彫刻 教科書、アクリルガッシュ	色彩についての基礎を学ぶ。	a, b, c	課題提出、授業の取組
	絵の具の技法	2	絵画・彫刻 教科書、アクリルガッシュ	絵の具の表現技法を学ぶ。	a, b, c	課題提出、授業の取組
6	シンボルマーク	2	デザイン 教科書、アクリルガッシュ	文字と図を組み合わせてデザインする。	a, b, c	課題提出、授業の取組
7 ～ 9	美術鑑賞	2	鑑賞 教科書、DVD	教材による美術作品の鑑賞を行う。	c	授業の取組、提出物
	地元のマスコットキャラクター	16	デザイン 教科書、粘土、アクリルガッシュ	地元について調べてマスコットキャラクターをデザインする。	a, b, c	課題提出、授業の取組
10 ～ 12	木彫	22	絵画・彫刻 教科書、木材	身近な道具を彫刻で制作する。	a, b, c	課題提出、授業の取組
1 ～ 3	自己を表現する ランプシェードをつくらう	10 鑑賞 絵画・彫刻 6 デザイン	教科書、鉛筆、アクリルガッシュ 教科書、和紙、LEDライト	鉛筆と絵の具を用いて自画像を描く。 和紙を用いてランプシェードを制作する。	a, b, c a, b, c	課題提出、授業の取組 課題提出、授業の取組

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・各課題の制作物を提出する。
- ・課題ごとにアイデアスケッチを提出する。
- ・ワークシートの記入を課した単元では、それを提出する。

7 担当者からの一言

美術の基礎的な知識や技術を身に付けることを前提に、各々が持つ感性を引き出せるよう指導していきたいと思っています。授業での表現・創作や鑑賞を楽しみながら、美術や美術文化への興味・関心の向上を目指します。美術は今後の人生をより豊かに彩ってくれるものと信じています。親しみを持って取り組んでいきましょう。

(担当：本田 貴哉)

教科(科目)	芸術 (書道 I)	単位数	2 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	東京書籍『書道 I』				
副教材等	教育図書『ペン習字の基礎』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>①基礎学力の定着と向上により、学ぶ意義を意識して学習する力を育成します。</p> <p>②規律ある学校生活を送る中で、責任ある行動をとる姿勢を育成します。</p> <p>③自己有用感を高めて、主体的に進路選択をする姿勢を育成します。</p> <p>④仲間と協力しながら、積極的に問題を解決する姿勢を育成します。</p> <p>⑤地域の特色やその魅力を理解し、地域の発展に貢献する心を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>①少人数授業での協働的な学びやICTの活用により、個を伸ばす授業を展開します。</p> <p>②生徒との対話を重視し、保護者・外部機関等と協力しながら生徒を支援します。</p> <p>③世との主体的な進路選択につながる体験を取り入れた学習を行います。</p> <p>④生徒一人ひとりが自己の役割を自覚し、自己に対する肯定的な評価に気付くことができる行事運営を行います。</p> <p>⑤地域の人的・物的資源を取り入れ、地域と連携したキャリア教育を実施します。</p>

2 学習目標

<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書の高さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の高さを味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の目標にしたがって作品を制作し、提出できるようになることを目指す。 ・机間巡視による個別指導で、基礎的用筆法・技術の習得を目指す。 ・自己評価カードにより古典の鑑賞・理解を深めるとともに、作品制作に対する反省点を把握し、意欲を引き出すことを目指す。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。 	<p>書の高さや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の高さを味わい深く捉えたりしている。</p>	<p>書の伝統や文化と豊かに関わり自主的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。</p>

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 提出作品、作品ファイル ワークシート 「学習の記録」による学習過程 「学習のまとめ」の内容などから、評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> 提出作品、活動の様子 「学習の記録」による学習過程 作品ファイル、ワークシート 「学習のまとめ」の内容などから、評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の様子 提出作品、作品ファイル ワークシート、鑑賞カード 「学習記録」による学習過程などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	書写から書道へ	4 オリエンテーション 用具用材	用具用材 姿勢特筆方	<ul style="list-style-type: none"> 先人の作品から、信条や人間性を汲み取る。 筆の持ち方や姿勢について。 具用材の特性を知り、表現の違いを知る。 	b c	鑑賞レポート ワークシート 提出作品 学習記録
5	漢字の書	16 ・楷書の用筆、字形 ・古典の基本的な点画、表し方	九成宮醴泉 孔子廟堂碑	<ul style="list-style-type: none"> 基本的書道用語、漢字の成立と変遷について理解する。 楷書の特徴を知り、用筆、字形の取り方を理解する。 	a b	提出作品 学習記録 ワークシート 学習活動の様子
6			孟法子碑 造像記	<ul style="list-style-type: none"> 「造像記」の方形に構えた字形を基に刻字を制作する。 	a b c	制作カード 学習活動の様子 学習記録
7	創作をしよう(楷書)鑑賞	8 楷書創作 (2~3字)	楷書 (2字)	<ul style="list-style-type: none"> 採択の技法を知る。 	b	制作カード 学習活動の様子
9	行書の古典を学ぼう	6 古典の基本的な点画、表し方	蘭亭序	<ul style="list-style-type: none"> 古典の特徴や技法を生かして制作する。 行書を知り、行書の特徴を理解する。 行書の用筆、字形のとり方について理解する。 	b c a	制作カード ワークシート 学習活動の様子 提出作品
10	創作をしよう(行書)鑑賞	6 行書創作 (四字熟語)	風信帖	<ul style="list-style-type: none"> 「風信帖」と空海について知る。 「風信帖」を臨書する。 	a	提出作品 ワークシート 鑑賞レポート
11	篆刻、刻字をしよう	14 ・篆刻 ・刻字	姓名印	<ul style="list-style-type: none"> 落款印について知る。 篆刻の用具・材料や手順を知り、姓名印を制作する。 	a	制作カード 学習活動の様子
12			造像記		b	提出作品 ワークシート 学習活動の様子 学習記録
1	仮名の書に親しもう	6 ・仮名の用筆 ・単体、連綿鯛、臨書	仮名の基本線 いろは高野切第三種	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の成立や仮名の種類について理解する。 仮名の基本的な線、運筆について理解し、練習する。 いろは帖の作成 	a	提出作品 ワークシート 学習活動の様子 学習記録
2	生活の中	10	形状	これまで学んだことを日常に生かす。		

3	の書 漢字仮名 交じり文	・構成の工夫、 形式 ・漢字仮名交じ り文	礼状 のし袋			
---	--------------------	--------------------------------	-----------	--	--	--

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・毎時間学習内容は「学習記録」に記録し、課題に応じて作品制作カード、および学習成果（作品）を提出する。
- ・制作にあたり、どのようなことを表現、工夫をしたかを作品制作カードに記録していく。
- ・学習成果（作品）提出前に書いたもの（試書）などをファイルしておく。
- ・单元ごとに、「学習記録」・ファイル・試作カードとともに「学習のまとめ」を行い、自己評価する。
- ・自分の作品や友人の作品に対する鑑賞がどのように深まっていったかを、鑑賞カードなどを用いて確認する。

7 担当者からの一言

- ・「何ができるようになったか」を大切にしたいと思います。1時間の中での進歩、单元を通しての進歩、学期を通しての進歩、そして、1年間の学習を通しての進歩が感じられるような学習の取り組みをしてください。
- ・一人一人の個性を生かし、これを伸ばしていくことを学習の第一目標としています。練習する古典や題材とする語句などについて、自分を最高に生かせる選択をしていきたいものです。
- ・「書道Ⅰ」の学習を通して、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになってほしいと思います。
(担当：関川 正枝)